

## 収蔵庫 国宝障壁画 桜図

国宝に指定されている大小の襖絵や僧侶や、他の作家によって書かれた貴重な古文書など、多くの文化財は、真言宗の智山宗の総本山である智積院に保存されています。おそらく最も有名な宝物は、「桜図」、「楓図」、そして桃山時代（1568-1600）に長谷川等伯の一派によって作成された他の壮大な襖絵でしょう。

長谷川等伯の息子である久蔵は、25歳のときにこの「桜図」を描きました。この作品は、金箔で覆われた壮大な色の背景に大きく印象的な桜の木が特徴です。桜の花が生き生きと描かれ、それぞれの花びらが見事に描かれています。この絵の驚くべき美しさと久蔵の技術は、将来的に長谷川等伯の一派に大きな希望を与えたに違いない。残念ながら、久蔵はこの傑作を完成させた翌年に亡くなりました。